

平成26年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名

助産師の妊娠期の会陰ケア実施とその関連要因

学位の種類： 修士（看護学）

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 看護科学域

学修番号 12894604

氏名：今野千春

（指導教員名：安達 久美子）

注：1 ページあたり 1,000 字程度（欧文の場合 300 ワード程度）で、本様式 1～2 ページ（A4 版）程度とする。

【目的】

妊産褥婦にとって、会陰切開や会陰裂傷は分娩時の不安や産後の不快症状の一つである。会陰切開を回避し会陰裂傷を最小限にするための、妊娠期のケアの有効性は明らかにされているが、実施の現状は明らかにされていない。本研究では助産師の妊娠期の会陰ケア実施とその関連要因を明らかにする。

【方法】

首都圏近郊の病院・診療所・助産所に勤務する助産師に、妊娠期の会陰ケアに関する自記式質問紙を用いて調査を行った。先行研究を参考に、妊娠期の会陰ケア実施の関連要因推定のため、従属変数は妊娠期の会陰ケア実施の有無とし、多重ロジスティック回帰分析を実施した。

【結果】

151 施設、946 人に質問紙を配布し 494 人から返信があり、そのうちの有効回答者 463 人を分析対象とした。助産師の 422 人(91.1%)が妊娠期の会陰ケアを知っていたが、現施設で実施している者は 117 人(25.3%)であった。もっとも実施されていたケアは「会陰マッサージ」であった。妊娠期の会陰ケアの実施は、『フリースタイル分娩の導入』OR3.263、『職場環境』として「所属場所」OR1.468, 「実施しやすい施設環境である」OR2.702, 「スタッフが協力的である」OR3.040, 『助産業務における会陰ケアの位置づけ』OR2.790 と関連があった。妊娠期の会陰ケアを実施していない者は、実施しない理由として、妊娠期の会陰ケアのエビデンスの不足、妊娠期の会陰ケアの効果の不確かさをあげていた。

【考察】

妊娠期の会陰ケアの実施関連要因である『フリースタイル分娩の導入』では、フリースタイル分娩は仰臥位以外の分娩を可能にし、会陰切開を回避し会陰裂傷を最小限にすることを可能にする。導入している施設に勤務している助産師は、会陰切開や会陰裂傷予防に関する意識が高く、分娩期のケアだけでなく妊娠期のケアについても積極的であることが考えられる。『職場環境』では、助産師が直接妊婦自身と関わる場所に勤務していることがケアの実施につながっていた。『助産業務における会陰ケアの位置づけ』では、助産師一人ひとりが会陰切開を回避し会陰裂傷を最小限にしたいという高い意識が必要であった。

【結論】

妊娠期からの会陰ケア実施には、助産師自身の会陰裂傷予防に対する思いと会陰ケアが実施しやすい施設環境の整備が必要になることが示唆された。

キーワード：助産師、妊娠期、会陰切開、会陰裂傷、会陰ケア